



宮内（宮内地区運動会）

うたごよみ 師走

【短歌】

渡辺幸士 選

暴力で治めし者は暴力で終わり告げるを確と見ており
内田のぶ子

庭先の鶏頭秋の陽に映えてその輝きに暫し見惚るる
井上ユリ子

掌心に這入らん程の嬰兒に語りかけつつ湯浴みする母
上村 かず

ドライバーの一年生ですよろしくと女孫も同じ前を向き行く
吉永由紀子

ときめきも恥じらいも無き歳にして感謝の気持ち持ち続けたし
上村やす美

青鷺は薄墨色の衣着し托鉢僧の孤愁にも似て
内山タミエ

収穫を終えし田圃に「ありがとう」感謝をしつつ新米食す
緒方 明美

「元気です」友の送りし絵手紙のつわぶきの葉は光りて香る
赤星 延子

胡蝶蘭に赤いリボンの鉢を抱き似合わぬ男信号を待つ
塚原 暁益

深み行く秋に誘われ鶏頭の紅、黄、橙々艶めき牙える
本田富美子

鈴なりの甘柿を食む人も無く戦時想へば食の恩薄し
松本ぬい子

歳老いて眼科・内科に整形と吾が身保つも巡るも忙し
森田 房恵

クラス会に逢いたる友を老いたなど驚きて見る吾が老い知らず
渡辺 幸士

【川柳】

渡辺幸士 選

【七五三】

七五三孫のしぐさが気にかかる
早 彦喜

七五三パパは一日カメラマン
古閑チヨミ

七五三世界の子供を祝いたい
林 雅之

未来の期待背に重たい七五三
北 仁子

七五三親子三代着た着物
布田 愛子

【嫌い】

長寿の元嫌いな物無し腹八分
伊豆野ヤエ

好き嫌いの窓に見透かされ
緒方 瑞枝

大嫌いだった男の嫁になる
成松 松枝

負けず嫌い同士話が折り合わず
丸岡はる子

嫌いだと言ってしまったちぎれ雲
渡辺 幸士

【俳句】

今朝切りし佛花露ごとあげにけり
田端 慶子

落葉踏むはるかなる日の遠し香も
楠本 美鶴

窓明けて思はず目を閉つ朝の冷え
堀田 孝恵

秋の夜や古きアルバムに刻忘れ
高田れい子

老農の腰伸ばしたり秋の温泉や
古田 幸子

秋晴れや新築進む祝餅
本田 信子

お問い合わせ先 町教育委員会公民館事務局
☎096・234・1111（内線321）

ひとの動き (敬称略)

10月11日(火)~11月10日(木)

birth お誕生おめでとう

住所	氏名	性別	保護者
上揚内	赤星 優衣	女	龍雅 己和
早川	岩崎 楓	女	龍雅 里
津志田	高橋 結心	女	愛俊 隆
府領内	北村 梨梨	女	俊隆 一浩
豊内	遠山 絢	男	隆哲 也
上早川	佐村 歩	女	生寿 大
早川	石井 心太郎	男	祐大

marriage ご結婚おめでとう

住所	氏名
熊本市	木村 明稔
上早川	田端 みゆき
熊本市	高木 政透
上早川	美濃田 真妃
宇土市	本田 俊
上揚	旭 幸恵
熊本市	原口 宏一
緑町	北里 尚古
熊本市	有田 幸生
吉田	米村 幸代
熊本市	村上 広成
仁田子	舩田 ひとみ
大町	大村 純一
水川町	前田 真奈美
宇土市	松本 和彦
船津	金森 真奈美
熊本市	後藤 大輔
上揚	藤本 幸

condolence お悔やみ申し上げます

住所	氏名	年齢	世帯主
坂谷	渡邊 キミ	93	キミ
船津	仲原 國江	85	國江
早川	早崎 和子	79	武
大町	奥田 忠義	78	正 巳
田口	上田 護	78	英 子
西寒野	松井 絹江	77	健 次
津志田	白梅 安子	67	武 人
船津	山下 正幸	62	大 八郎
津志田	森口 学	83	テイ子
上早川	園田 亮多	67	順 子
麻生原	松岡 ちま子	68	ちま子
世持	上田 ちよ子	93	ちよ子
中横田	田上 清久	89	清 久

Data 甲佐町の人口・世帯数

項目	数	増減
男	5,407	0
女	6,085	9
計	11,492	9
世帯数	4,212	8

平成23年10月31日現在

〔町史編さんだより〕

「花と緑と鮎の町」というキャッチフレーズをうたっている甲佐町にとって、アユはシンボリックな生き物です。今回は、緑川のアユの生活史を紹介します。

アユは、アユ科アユ属に分類され、北海道から九州まで幅広く分布しています。熊本県内では、緑川、球磨川、白川、菊池川などに生息しています。サイズは、全長10〜30センチになります。特に、球磨川の尺アユは全国的に知られています。産卵期のアユは、「さびアユ」と呼ばれ、雌雄ともに黒ずんできます。秋に中流域下部の砂礫(されき)底で産卵します。晩秋にふ化した仔魚は海に下り、動物性プランクトンを食べて成長します。

多くの人でにぎわう緑川でのアユ釣り



甲佐の歴史を紡いで

~町史編さんだより(38)~

緑川のアユの生活史

町史編集委員 中田 裕一 (生物)

3〜4月に、体長3〜4センチになった稚魚は、緑川を遡上しますが、川尻、嘉島、城南、甲佐にある堰(せき)で苦労します。熊本市城南町の築地堰では上ることができませんので、緑川

漁協はそこで稚魚をすくい上げて、田口橋近くにある漁協にある4つの水槽でしばらく育てます(中間育成)。4月に入り、緑川漁協は体長5〜5.5センチ(5センチ)になった稚魚を、緑川

の上・中流域に随時放流していきます。

幼魚期は水生昆虫や浮遊動物を食べますが、中流域に達した8センチ前後のアユは、岩盤や礫の表面に付く付着藻類を削りとりて食べます。石には、笹の葉状のはみ跡が残ります。

また、成長するにつれて縄張り(テリトリー)を持つようになります。アユのとも釣りはそれを利用したものです。

甲佐町の皆さん、緑川の鑑札を購入して、大いに釣りを楽しみましょう。そのことが、緑川流域の自然保護につながります。

▼『甲佐町史』編さんに関するお問い合わせ先
町社会教育課町史編集係
☎096・234・3310

編集後記

「カレンダールの裏に書いたボスターでお知らせしただけに、参加者がたくさんいらしたから、ぜひ取材を」と、にこやかなお誘いが突然舞い込んだ朝。声の主は、甲佐町の食材を生かした料理などを活用して、地域の元気の掘り起こしに取り組む沼田峰子さん。「ろくじ館」で、今春から始めた食事処「ろくじ館」に続いての企画「手作り体験教室」の当日のこと。

「ろくじ館」をさらに活気付けるために、生産者の皆さんを「食の名人」と名付けて講師として引っ張り出し、生産者と買い物を結び付けて、元気の輪をさらに広げようという試み。「ろくじ館」の企画でみんなの意識が変わって、元気がアイデアが出てきました。新しい試みにどんどん挑戦して、もっと元気にしたい」と、今日も輝く沼田さんの笑顔。(一)